

音楽科学習指導案

題材名「詩と音楽との関わりを意識して歌曲のよさを味わおう」

〔学指要領：B 鑑賞(1)ア(7)、イ(7) 共通事項(1)ア〕

令和〇年〇月〇日(〇) 第〇校時 音楽室
〇〇立〇〇中学校 1年〇組 〇名 指導者 〇〇 〇〇

I 題材の構想

1 題材の目標及び生徒の実態

	目標	生徒の実態
知識及び技能	・「魔王」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。	・音楽から知覚した音楽を形づくっている要素の働きや感受したことについて、気付いたことを短い言葉で伝えることはできるが、それらの関わりについて、十分に理解している生徒は少ない。
思考力、判断力、表現力等	・「魔王」の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	・音楽を聴きながら身体を動かしたり、印象に残ったフレーズを口ずさんだりするなど、自分なりに音楽のよさや美しさを見付けながら聴いている生徒が多い。しかし、その理由について、音や音楽から知覚したことを基に考え、説明することが苦手な生徒もいる。
学びに向かう力、人間性等	・「魔王」の曲想と音楽の構造との関わり、曲に対する評価とその根拠に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、ドイツ語の歌曲に親しむ。	・ソネットに表された情景を音楽でどのように表現しているかを考える学習の際に、知覚したことや感受したことを交流し、音楽の構造と曲想との関係に関心を持つようになった。

2 評価規準

知識・技能	①「魔王」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	①「魔王」の音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ②曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
主体的に学習に取り組む態度	①「魔王」の曲想と音楽の構造との関わり、曲に対する評価とその根拠に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画(全3時間：本時第2時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	・「魔王」を聴き、詩の内容や音楽から感受したイメージ、知覚した音楽の特徴など、気付いたことを伝え合い、題材の課題を把握する。(a) 題材の課題 「魔王」の詩の内容を表すためにシューベルトがどのような作曲の工夫をしているかを探って、曲の魅力を伝え合おう。	●	○	○
2	・子の旋律と魔王の旋律を比較して聴き、詩の内容と音楽を形づくっている要素との関わりを視点として、作曲者が意図した表現の工夫について話し合う。(a)		●	○
3	・「魔王」の魅力を紹介する文を書いて伝え合い、全曲を再鑑賞し、題材全体の振り返りをする。(a)(b)		●	●

*活用するコンテンツ等：(a)「魔王」ドイツ語歌唱音源 (b)「魔王」ドイツ語歌唱動画

4 教材曲の価値

【教材曲】「魔王」(シューベルト作曲)

「魔王」は、語り手・父・子・魔王の4人の登場人物の心情や情景が、ピアノ伴奏と一人の歌手によって巧みに表現されるドイツ語の歌曲である。詞の内容に基づいて作曲されているため、登場人物の旋律を追いながら聴くことで、曲想の変化や音楽を形づくっている要素を捉えやすく、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。音色、旋律、強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きと感受した登場人物の心情の変化やイメージとの関わりに着目して聴くことに適した歌曲であるため、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞する力を養うことができる。

II 本時の学習 (2/3)

- 1 ねらい 声の音色、旋律、強弱などに着目して子の旋律と魔王の旋律を比較鑑賞し、詩の内容と音楽を形づくっている要素との関わりを視点として、作曲者が意図した表現の工夫について話し合うことを通して、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)</p>
<p>1 「魔王」を聴き、本時のめあてをつかむ。(10分)</p> <p><めあて> 声の音色、旋律、強弱などに着目して子の旋律と魔王の旋律を聴き、作曲者の工夫を見付けよう。</p> <p>S: 「魔王」の恐ろしい感じを伝えるために、シューベルトはどんな作曲の工夫をしたのかな。</p>	<p>○音楽と詩の内容との関わりについて確認できるように、曲の進行に合わせて詩の日本語訳が表示される動画を準備しておく。</p> <p>○見通しを持って学習活動に取り組むことができるように、感受したこととその根拠となる音楽の様子や特徴を問いかける。</p>
<p>2 子の旋律を聴き、音楽を形づくっている要素の働きを捉える。(10分)</p> <p>S: 子の旋律は、何かにおびえている感じがするな。だんだん恐怖感が増しているようにも感じる。</p> <p>S: 感じ取ったことはどうやら、音楽の特徴と関係がありそうだな。</p> <p>S: 声の高さがだんだん高くなっているから、子の恐怖が増していくように感じるのだな。</p>	<p>○登場人物ごとの雰囲気や曲想の違いを感受できるように、子の旋律を前時に聴いた魔王の旋律と比較しながら聴くよう促す。</p> <p>○知覚したことと感受したことの関わりに着目できるように、生徒の意見を知覚と感受に整理して板書する。</p> <p>○4回繰り返される子の旋律は、次第に音が高くなっていることを楽譜上でも捉えられるように、大型モニターに楽譜を提示して、気付いたことを問いかける。</p>
<p>3 グループで魔王の旋律を聴き、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたことを交流する。(20分)</p> <p>S: 魔王の旋律は、子の旋律に比べて明るく優しい音色で歌われている。なぜだろう。</p> <p>S: 歌詞に着目すると、「さあおいで」と誘っているね。怖がっている子をなだめている様子を表しているのではないかな。もう一度聴いて確かめてみよう。</p> <p>S: 最初と比べると、最後は強く激しい音色に変化しているから、強引に連れ去ろうとしている感じが思い浮かぶな。シューベルトは強弱や音色に変化を付けて、様子の違いを表しているのだな。</p>	<p>○知覚したことと感受したことの関わりを考えることができるように、音楽を聴いて気付いたことを、「知覚した音楽を形づくっている要素とその働き」と「感受したイメージや雰囲気」に整理しながら話し合うよう助言する。</p> <p>○グループで考えた、知覚したことと感受したこととの関わりを、実感を伴って理解することができるように、細かく分けた音源を何度も聴き返して確かめるよう助言する。</p> <div data-bbox="826 1346 1428 1574" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目 (思①)</p> <p>観察やワークシートの記述内容から『魔王』の声の音色、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、それらの関わりを考えているか」を評価する。</p> </div>
<p>4 本時のまとめを確認し、学習内容の振り返りをする。(10分)</p> <p><まとめ> 作曲者のシューベルトは、声の高さや強弱を変化させることで、子の恐怖心の高まりを表現したり、旋律の明るさや声の音色を変化させることで、魔王が急に強引になる感じを表現したりしていた。</p> <p><振り返り> S: 最初に「魔王」を聴いた時には、単におそろしい感じという印象だったけど、声の音色や旋律、強弱などに着目しながら聴くことで、子や魔王の様子をより具体的に想像することができた。作曲者は詩の内容を伝えるために、音にいろいろな思いをこめて工夫していることが分かった。次の時間は、自分が考える曲のよさや面白さを紹介文にして伝えたい。</p>	<p>○多様な感じ取り方を共有・共感することができるように、全曲を再鑑賞する際に、各グループでまとめた考えを提示する。</p> <p>○知覚したことと感受したこととの関わりを考えられたことを自覚することができるように、作曲者の工夫について気付いたことを、言葉で伝え合ったり音や音楽で確かめたりしながら追求できたことを称賛する。</p>